



Title	職場・業務紹介 応用生命科学科植物育種学講座
Author(s)	畠山, 明
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 46-46
Issue Date	1994-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35261
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_p46.pdf



応用生命科学科 植物育種学講座 畠山 明 (技術部 作物・分析系)

◆職場紹介

私は昭和31年に北海道大学農学部附属農場に採用となり作物部で勤務に就いていましたが、昭和33年より農学部の作物育種学講座に配属となり現在は応用生命科学科の植物育種学講座で次のような仕事をしています。

- ①実験・実習。特に実験植物の育成・管理並びに収穫と、これらについての学生の指導
- ②系統保存業務(イネ、甜菜、ラベンダー等)
- ③当該講座所有の各種設備機器等の運用と管理

◆仕事内容

近年は実際に植物や土に触れたことがない学生が特に多く移行してくるようになりました。この様な学生には、先ず作物の実験や実習を通じて植物や土に親しむことを理解してもらうことから始まります。作物栽培の「イロハ」をまだ雪の残る頃の播種用の土壌の滅菌から、春の播種床作り、種蒔き、代掻き、田植え、夏の除草、日長処理、秋の収穫、保存種子の調整、冬の株保存や翌春の種子準備等を通して実地に指導しています。

この講座では長年に亘りイネの遺伝子分析を通じ、連鎖地図を作成するという大きなテーマを持っていますし、甜菜の雄性不稔についての研究もされています。そのためにこれまでに国内で集められたり諸外国から導入した系統や品種、あるいは色々な処理により新たに得られた突然変異系統等が数多くあり、これらの系統の保存業務も行っています。特にこの様な系統については各系統の特性評価による類別、北海道の気候に適さない系統・品種についての特殊栽培、各系統や品種の採種あるいは長期・短期保存のための収穫後の特別な種子調整、ならびに国内外からの依頼により保存品種や遺伝子分析用系統の配布等を行っています。なお、ここでは系統や品種によっては種子を保存する期間が異なり、一般には1年から3年の周期で採種を行わなければなりません。特に今年のように冷害の年には系統保存をやる者にとって最も栽培や採種に気を配ります。また、遺伝子分析の過程で行われた交配実験で得られた組換え個体の固定についても行っています。この様な系統は特に今後の遺伝子分析の交配母本となるものです。

また、最近ではバイオテクノロジー技術を使って作り出された栽培イネと野生稲の雑种植物の維持や採種および後代系統の管理についても担当しています。

これらの仕事はいずれも当該研究室の学生や大学院生の研究・実習に関係したものであり、また国内や海外からの研究者の利用についても便宜を計っています。

◆施設、設備、面積等

植物育種学講座には種々の設備や機器が有ります。種子の長期や短期の保存に使われる種子貯蔵庫、日長と温度を処理することのできる生育制御装置、日長を変化させて色々な環境条件を作り出せる日長調節装置、播種床の雑草種子等の防除に利用される土壌滅菌消毒装置および保存用種子の乾燥や播種用種子の催芽処理等に利用される大型恒温機などの温室関連機器の管理等についても行っています。

◆今後の方向または希望

まもなく定年となりますが、これまでここで得られたことの一端でも後進の方にお分けできるよう頑張って参るつもりです。